

[成果情報名] カンキツリーフディスクを用いたアカマルカイガラムシの飼育及び薬剤感受性
[要 約] 寒天ゲル上のカンキツリーフディスクでアカマルカイガラムシの飼育法を
確立するとともに、2 齢幼虫を対象とした効果の高い農薬を選抜した。
[キーワード] アカマルカイガラムシ、薬剤感受性、代替薬剤、リーフディスク
[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ・果樹環境適応技術科
[連絡先] 電話 054-376-6154、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp
[区分] 生産環境（病虫害）
[分類] 研究・参考

[背景・ねらい]

近年様々なカイガラムシ類の幅広いステージに卓効を示していた有機リン剤（スプラサイド）が登録失効になったことや、地球温暖化による発生世代の増加や越冬可能地域の拡大により、本県のカンキツ生産現場ではカイガラムシ類が問題となっている。

特にアカマルカイガラムシ（*Aonidiella aurantii*）はこれまで県西部地域のみで発生していたが、ここ数年で中東部にも分布を拡大しており、今後本県のカンキツにおける重大な害虫となる恐れがある。

そこで、カンキツリーフディスク（増井ら，2023）でのアカマルカイガラムシの飼育を検討するとともに、2 齢幼虫に対する薬剤感受性を評価した。

[成果の内容・特徴]

- 1 寒天ゲル上のカンキツリーフディスクでアカマルカイガラムシを 25℃条件下で 37 日間飼育可能であることを確認した（表 1、図 1）。
- 2 トランスフォームフロアブル及びモスピラン顆粒水溶剤はアカマルカイガラムシ雌幼虫及び雄幼虫ともに高い殺虫効果を示して、スプラサイド水和剤と同等の効果であった（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 寒天ゲルを用いたカンキツリーフディスクを活用して室内で精密な薬剤感受性の評価が可能である。
- 2 トランスフォームフロアブル及びモスピラン顆粒水溶剤は夏季防除におけるスプラサイドの代替剤となり得る。
- 3 モベントフロアブルやアブロードフロアブル、コルト顆粒水和剤については 2 齢幼虫を対象とした防除効果は低いため、1 齢幼虫や歩行幼虫を対象とした散布方法を検討する必要がある。

[具体的データ]

表1 カンキツリーフディスク法によるアカマルカイガラムシの生存率(25℃,16L8D)

	供試頭数	生存頭数	死亡頭数	生存率
雌幼虫	84	72	12	85.7
雄幼虫	35	32	3	91.4



図1 カンキツリーフディスク上のアカマルカイガラムシ(成虫)

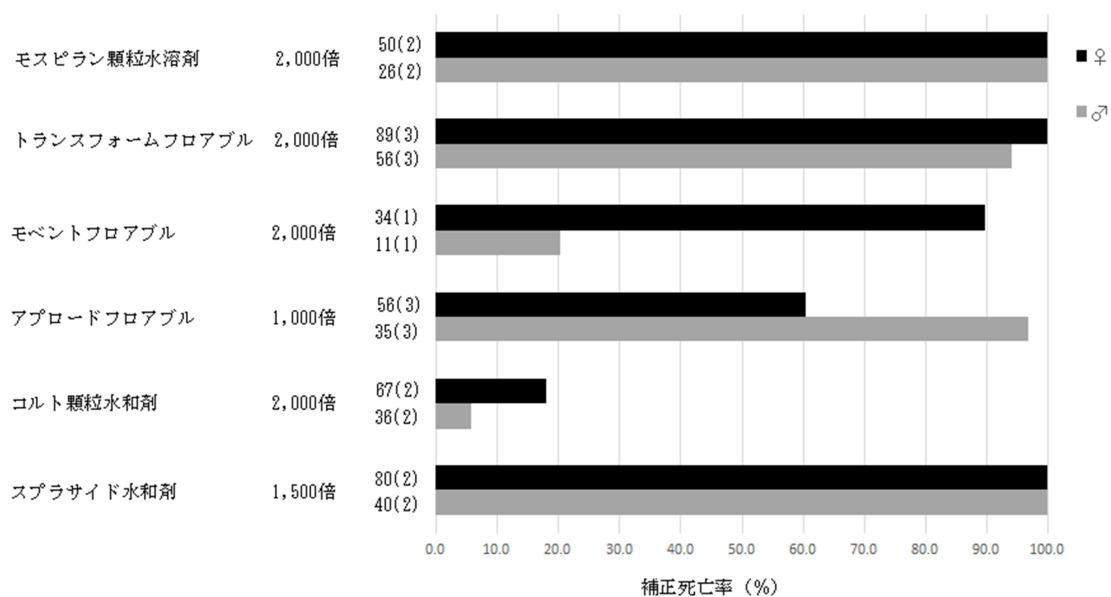


図2 アカマルカイガラムシの2齢幼虫に対する各種薬剤の効果

※各グラフ左横の数字は供試個体数、括弧内の数字は供試 LD 数を示す

[その他]

研究課題名：カンキツ害虫の薬剤抵抗性管理体系の確立

予算区分：消費・安全対策交付金

研究期間：2021～2025 年度

研究担当者：鈴木晴喜、石田朱里

発表論文等：増井ら（2023）第 67 回日本応用動物昆虫学会要旨

鈴木（2026）第 70 回日本応用動物昆虫学会講演要旨,印刷中